

科目名(Subject)	現代財務会計情報特論 (Topics in Modern Financial Accounting Information)		
単位数(Credits)	2 単位	開講時期	後期
担当教員名 (Name)	坂柳 明 (Akira SAKAYANAGI)	研究室番号 (Office)	423
Office Hours	月曜 16:10~17:40		
1. 授業目的・方法(Course objective and method)			
<p>この授業では、博士後期課程において財務会計分野で研究を進める上で必要になる、基本的な知識の修得を目的とする。そのような知識の修得は、字数が限られ、また、読者も限られる研究論文の執筆だけでなく、より多くの読者を想定した研究書を執筆する際に、その読者が持っているであろう関心と、自身の議論がどのような関係にあるのかを分析するのに役立つ、その読者に対して自身の議論がどのような意味で重要な示唆を与えるのかを見極めることに役立つ。</p> <p>そのような、より完成度の高い研究の成果である研究書の執筆を見据え、より多くの読者を惹きつけるための「厚みのある議論」を可能にするための訓練の場として、数が多いとは言えない授業回数ではあるが、この授業では、1つ目に、監査論におけるゴーイング・コンサーン問題とも関係が深い、古典的な文献 3. 授業内容(Course contents)を参照) を取り上げる。また、この授業では、2つ目に、近年日本でも行われている実証研究の論文のうち、3. 授業内容(Course contents)に掲げた、須田一幸編、『会計制度の設計』、白桃書房、2008年、で取り上げられている論文をいくつか解説する。</p> <p>この授業では、まず、事前に3. 授業内容(Course contents)に掲げた文献を読んできてもらい、重要な箇所を授業中のその場で翻訳してもらおう。次に、各文献に見られる財務会計の研究上の論点を指摘する。以上が、授業の方法である。</p>			
2. 達成目標(Course Goals)			
<p>上の1. 授業目的・方法(Course objective and method)で述べたような、より多くの読者を想定した研究書の執筆を目指し、研究上の論点を踏まえた上で、また関連領域の読者に自身の研究成果の意義を十分に伝えられる水準に達することを、達成目標とする。</p>			
3. 授業内容(Course contents)			
以下に示す「文献1」から「文献6」とは、 5. 使用教材(Teaching materials) に示す文献を指す。			
<p>1_ オリエンテーション、及び文献1の Introduction の解説、及び研究上の論点の指摘。 <u>予習課題</u> 文献1の Part I (pp.11-22) を読んでくる。 <u>復習課題</u> Introduction の解説の後、疑問に感じたところを次回の授業で発表してもらおう。 (以上を、第1回の事前学修と事後学修の課題とします。)</p>			
<p>2_ 文献1の Part1 (pp.11-22) の解説、及び研究上の論点の指摘。 <u>予習課題</u> 文献1の Part II (pp.25-52) を読んでくる。 <u>復習課題</u> 文献1の Part I 1 (pp.11-22) の解説の後、疑問に感じたところを次回の授業で発表してもらおう。 (以上を、第2回の事前学修と事後学修の課題とします。)</p>			

3. 文献1のPart II (pp.25-52) の解説、及び研究上の論点の指摘。

予習題 文献1のPart III (pp.55-97) を読んでくる。

復習題 文献1のPart II (pp.25-52) の解説の後、疑問に感じたところを次回の授業で発表してもらう。
(以上を、第3回の事前学修と事後学修の課題とします。)

4. 文献1のPart III (pp.55-97) の解説、及び研究上の論点の指摘。

予習題 文献1のPart IV～V (pp.101-116) 、文献2のI～IIの解説を読んでくる。

復習題 文献1のPart III (pp.55-97) の解説の後、疑問に感じたところを次回の授業で発表してもらう。
(以上を、第4回の事前学修と事後学修の課題とします。)

5. 文献1のPart IV～V (pp.101-116) 、文献2のI～IIの解説。及び研究上の論点の指摘。

予習題 文献2のIII～IVを読んでくる。

復習題 文献1のPart IV～V (pp.101-116) 、文献2のI～IIの解説の後、疑問に感じたところを次回の授業で発表してもらう。

(以上を、第5回の事前学修と事後学修の課題とします。)

6. 文献2のIII～IVの解説、及び研究上の論点の指摘。

予習題 文献3のChapter1～2 (pp.1-20) を読んでくる。

復習題 文献2のIII～IVの解説の後、疑問に感じたところを次回の授業で発表してもらう。
(以上を、第6回の事前学修と事後学修の課題とします。)

7. 文献3のChapter1～2 (pp.1-20) の解説、及び研究上の論点の指摘。

予習題 文献3のChapter3～4 (pp.21-37) を読んでくる。

復習題 文献3のChapter1～2 (pp.1-20) の解説の後、疑問に感じたところを次回の授業で発表してもらう。
(以上を、第7回の事前学修と事後学修の課題とします。)

8. 文献3のChapter3～4 (pp.21-37) の解説、及び研究上の論点の指摘。

予習題 文献3のChapter5～6 (pp.38-55) を読んでくる。

復習題 文献3のChapter3～4 (pp.21-37) の解説の後、疑問に感じたところを次回の授業で発表してもらう。
(以上を、第8回の事前学修と事後学修の課題とします。)

9. 文献3のChapter5～6 (pp.38-55) の解説、及び研究上の論点の指摘。

予習題 文献5を読んでくる (1回目)。

復習題 文献3のChapter5～6 (pp.38-55) の解説の後、疑問に感じたところを次回の授業で発表してもらう。
(以上を、第9回の事前学修と事後学修の課題とします。)

10. 文献5の解説、及び研究上の論点の指摘 (1回目)。

予習題 文献5を読んでくる (2回目)。

復習題 文献5の解説の後、疑問に感じたところを次回の授業で発表してもらう (1回目)。
(以上を、第10回の事前学修と事後学修の課題とします。)

11. 文献5の解説、及び研究上の論点の指摘 (2回目)。

予習題 文献6を読んでくる (1回目)。

復習題 文献5の解説の後、疑問に感じたところを次回の授業で発表してもらう (2回目)。
(以上を、第11回の事前学修と事後学修の課題とします。)

12. 文献6の解説、及び研究上の論点の指摘 (1回目)。

予習題 文献6を読んでくる (2回目)。

復習題 文献6の解説の後、疑問に感じたところを次回の授業で発表してもらう (1回目)。
(以上を、第12回の事前学修と事後学修の課題とします。)

13. 文献6の解説、及び研究上の論点の指摘 (2回目)。

予習題 文献4の中から、相談の上、受講者に関心のある章をいくつか読んできてもらう (1回目)。

復習題 文献6の解説の後、疑問に感じたところを次回の授業で発表してもらう (2回目)。
(以上を、第13回の事前学修と事後学修の課題とします。)

14 文献4の解説、及び研究上の論点の指摘（1回目）。

予習課題 文献4の中から、相談の上、受講者に関心のある章をいくつか読んできてもらう（2回目）。

復習課題 文献4の解説の後、疑問に感じたところを次回の授業で発表してもらう（1回目）。

（以上を、第14回の事前学修と事後学修の課題とします。）

15 文献4の解説、及び研究上の論点の指摘（2回目）。これまでの授業のまとめ。

予習課題 なし

復習課題 なし

4. 事前学修・事後学修(Preparation and review)

3. 授業内容(Course contents)を参照。

5. 使用教材(Teaching materials)

文献1：Sanders, Thomas Henry, Henry Rand Hatfield and Underhill Moore, *A Statement of Accounting Principles*, New York: American Institute of Accountants, 1938.

文献2：American Accounting Association, *Accounting and Reporting Standards for Corporate Financial Statements, 1957 Revision*, 1957.

文献3：Moonitz, Maurice, *The Basic Postulates of Accounting*, Accounting Research Study No.1, New York: American Institute of Certified Public Accountants, 1961.

文献4：須田一幸編, 『会計制度の設計』, 白桃書房, 2008年.

文献5：Sloan, Richard G., “Do Stock Prices Fully Reflect Information in Accruals and Cash Flows About Future Earnings,” *The Accounting Review*, Vol.71 No.3, July 1996.

文献6：Barth, Mary E., John A. Elliott and Mark W. Finn, “Market Rewards Associated with Patterns of Increasing Earnings”, *Journal of Accounting Research*, Vol.37 No.2, Autumn 1999.

他に関連文献があれば、適宜紹介する。また、受講者と相談の上、使用教材を変更することがある。しかし、使用教材を変更しても、**1. 授業目的・方法**(Course objective and method)で述べた趣旨、及び**2. 達成目標**(Course Goals)で述べた趣旨が変わるわけではない。

6. 成績評価の方法(Grading)

出席率：10%

授業への参加度（討論、事前課題・事後課題の提出）：65%

他分野の読者を想定した研究上の議論ができているかどうか：25%

7. 成績評価の基準(Grading Criteria)

秀（100～90）：取り扱った財務会計の文献、及び授業で指摘した論点をほぼ理解しており、財務会計分野の研究を行う基礎がほぼできている。

優（89～80）：取り扱った財務会計の文献、及び授業で指摘した論点を十分に理解しており、財務会計分野の研究を行う基礎が十分にある。

良（79～70）：取り扱った財務会計の文献、及び授業で指摘した論点をある程度理解しており、財務会計分野の研究を行う基礎が概ねできている。

可（69～60）：取り扱った財務会計の文献、及び授業で指摘した論点の理解が十分ではない点が目立つため、財務会計分野の研究を行う基礎の確立に少し不安がある。

不可（59～0）：取り扱った財務会計の文献、及び授業で指摘した論点を理解していないため、財務会計分野の研究を行う基礎ができているとは言えない。

8. 履修上の注意事項(Remarks)

授業への積極的な参加、発言を求めます。